

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年9月27日

Nature: 新型コロナワクチンで不正出血リスク増加

## 【松崎雑感】

「不正出血」とは、「月経・分娩などの正常な時期以外で起こる女性器からの出血の総称」です。閉経後の女性にとっては、子宮がんの可能性をまず考える必要のある症状です。しかし、新型コロナワクチン接種後でも、数倍程度増加することがわかりました。メカニズムは不明ですが、新型コロナワクチンが性周期に若干影響することも報告されています。

## 新型コロナワクチンで不正出血リスク増加

Sanderson K. **COVID vaccines linked to unexpected vaginal bleeding**

[published online ahead of print, 2023 Sep 25]. **Nature.**

2023;10.1038/d41586-023-02996-6. doi:10.1038/d41586-023-02996-6

大規模コホート調査で、新型コロナワクチン接種後の不正出血増加リスクが明らかにされた

閉経あるいはピルを服用して生理出血を止めている人々は、新型コロナワクチン投与後に予期せぬ不正出血が数倍に増加することが分かった (Unexpected vaginal bleeding and COVID-19 vaccination in nonmenstruating women | Science Advances)。

新型コロナワクチン投与が始まった当初、多くの女性で生理出血量が増加したとの申告があった。ノルウェー公衆衛生研究所クリスティン・ブリックス氏は、閉経後あるいはピル服用中の人々で不正出血が増えるかどうかを調査した。この調査結果はScience Advancesに掲載された。

研究チームは、不正出血をもたらす原因が、新型コロナワクチンに使用されている新型コロナウイルスのスパイク蛋白にあるかもしれないと考えている。ただし新型コロナワクチンの全般的な安全性と有効性は十分確立されている。

チームは、現在進行中のNorwegian Mother, Father, and Child Cohort Studyのデータを活用して調査を行った。

「我々はパンデミック当初から2週間ごとに健康状態がどうなったかをモニターしてきた」とブリックス氏は述べた。2021年に新型コロナワクチンに関する質問項目を含む調査票を送ったところ、自由記述欄に生理の出血がとて多くなったとの記入が目についた。「これが調査を始めるヒントとなった」と彼女は語った。

## 広汎な影響

閉経後、閉経周辺期、ピル服用中を含む閉経前の生理のない人々21000名から回答を得た。驚くべき結果が得られた。閉経後女性252名、閉経周辺期女性1008名、閉経前女性924名から、予期せぬ不正出血が報告された。

約半数は、1回目あるいは2回目の新型コロナワクチン接種から4週間以内に不正出血がみられたという。閉経前および閉経周辺期の女性では、ワクチン接種から1か月以内に、従来の3～5倍の頻度で不正出血が見られたという。閉経後の女性の不正出血リスクは2～3倍だった。

ルウェーではモデルナ、ファイザー、アストラゼネカのワクチンが使用されている。2022年10月、欧州医薬品庁は、生理の出血が多くなることをmRNAワクチンの副作用と認定した。

閉経後の予期せぬ不正出血は、普通子宮内膜ガンや前がん状態などに伴うことが多い。ワクチン接種後に不正出血が増加するメカニズムは不明だが、ワクチン関連副反応である可能性が高いことを認識されたなら、臨床上的鑑別診断に大いに参考となるだろう。「閉経後の不正出血は性器ガンに伴う事があるため大いに心配されることが多いが、ワクチン接種による可能性もあることがわかれば、ある程度安心かもしれない」とイリノイ大学の生物人類学者ケイト・クランシー氏は語っている。

彼女のチームは、新型コロナワクチン接種後に生理周期が変化することを発表している。彼女は、この知見が患者と臨床医に参考になるだろうと考えている。

「新たなワクチン開発にあたっては、生理による出血パターンの変化もエンドポイントに加えて臨床トライアルを進める必要があるだろう」とブリックス氏は語る。

「私たちのチーム以外にも、閉経周辺期と閉経後不正出血に目を付けた人々がいることは嬉しい。このような全体から見ればマイナーな人々の問題に光が当たることはうれしい」とクランシー氏は語った。